

平成30年度 第九中学校の学校経営計画について(概要)

足立区立第九中学校長
長塚琢磨

学校教育目標

人間尊重の精神を基盤に据え自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会で活躍できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する

生徒行動指針(校訓)

磨く
自分自身のよさを見だし、向上していく。

挑む
できないことや新しいこと等に立ち向かっていく。

思いやる
自他の違いを認め、尊重する心を育む。

教職員指導指針

「やさしく厳しく指導する」
生徒がわかるまで、できるまで指導する。
「組織で職務に当たる」
報告・連絡・相談を密にし、組織で仕事を推進する。

基本的な考え方

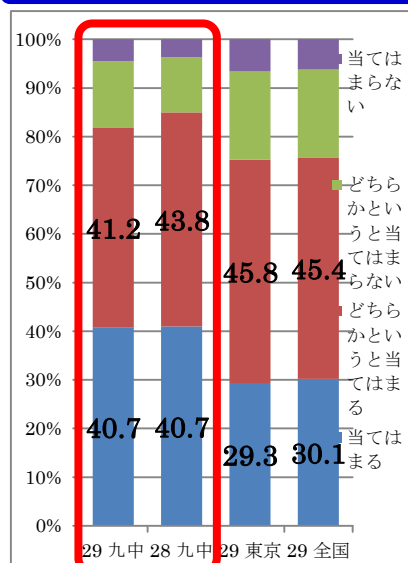
【学校経営の3つの柱】

- 学力向上
- 健全育成
- 体力向上

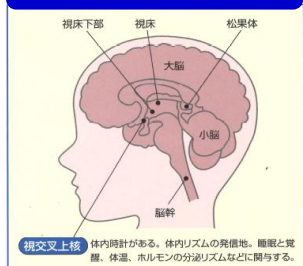
小中一貫教育による
活力ある子どもの育成

- 義務教育の最終段階として自立させる指導
生徒が、自らを律し、活力ある行動により、自らを磨き高め、自分にあった適切な進路を選択する力の育成が必要です。
- わかる授業・できる授業づくりと家庭との連携強化
学校と家庭が一丸となって、生徒が自己開発できるように、挑む態度を育成する必要がある。
- 発達の段階に合った指導の充実
小中一貫教育の視点に立った段階的な指導が必要である。

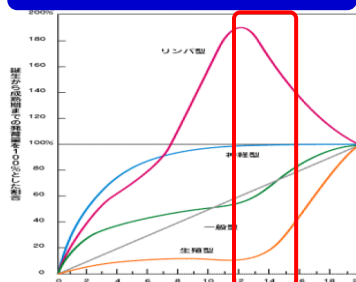
先生は分かるまで教えてくれる



朝日で脳がリセット



スキヤモンの発育・発達曲線



平成29年度の重点と主な取組

指導の重点

学力向上

基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力を育成し主体性と国際感覚をもった人材を育成する。

豊かな心の育成

思いやりの心を育てるとともに、自治の力を身に付けさせ、自己有用感や自尊感情を高める

体力向上

全ての活動の源である体力の理解を深め、生涯にわたって健康で豊かな生活を送る基礎を育む。

小中一貫教育の視点に立った指導の充実

義務教育9年間で体系的・系統的な指導を行い、次代を担う活力ある子どもを育成する。

指導体制の充実

学校・家庭・地域がチームとして子どもを育てる仕組みの構築や授業力の向上を図る。

主な取組内容

個に応じた指導、教科コンテストの実施、学習カウンセリング、ESL(エクストラ・サプリメント・レッスン)、教え合い教室、夏季補習教室やサマースクール、関係機関との連携、土曜スクールや各種検定の推進 など

挨拶や礼儀・マナー指導の推進、人権教育の推進、道徳教育の充実、学校行事等における生徒の主体的な取組、自治活動の充実、社会貢献活動の推進 など

保健体育等の授業の改善・充実、生活習慣や運動習慣の確立、食育の推進、部活動の推進、食育の推進、東京都教育委員会スーパーアクティブスクールの実践研究 など

系統性を踏まえた授業研究の充実、小学生の中学校授業や部活動等の体験、夏季休業中の小学生補習学習の支援、発達の段階を踏まえた児童・生徒指導の充実 など

学校・家庭・地域の連携強化、開かれた学校づくり協議会等の充実、若手教員の育成とOJTの充実、HP・各種便り・公開授業、啓発資料等による情報発信 など

学校評価を踏まえた平成 30 年度の第九中学校の方向性について (概要)

本年度の方針と重点

学校教育目標

目指す学校像
文武両道、人権教育の推進 組織力の強化

目指す生徒像
「磨く」「挑む」「思いやる」

目指す教師像
使命感と責任感 組織力 やさしく厳しい指導

教育の質の向上

- 学力向上 ※ () 内は実績
- 通過率 65.0%以上を目指す (64.9%)
 - 家庭学習 1 時間以上 70.0%以上 (62.7%)
 - 数学の基礎学力定着 80.0%以上 (実施中)
- 健全育成
- 学校生活満足度 80.0%以上 (89.4%)
 - 部活動を頑張った 90.0%以上 (91.6%)
 - 学校行事を頑張った 95.0%以上 (97.1%)
- 小中一貫教育の視点に立った教育の推進
- 年 6 回の検証授業や協議会での授業改善
 - 児童・生徒の交流や円滑な接続
 - 体力向上の取組の充実
- 東京都教育委員会スーパーアクティブスクール

調査結果の分析と課題の明確化

【生徒による自己診断】

調査結果 (肯定的に回答した割合: 数値は%) 12月9日実施

項目	全体	1年	2年	3年
学校生活に満足していますか。	89.4	90.0	83.3	94.8
挨拶はしっかりできていますか。	95.2	95.6	92.5	97.6
学校での学習に努力していますか。	87.1	83.8	81.8	95.8
運動会では頑張りましたか。	97.0	97.5	94.9	99.4
文化祭では頑張りましたか。	97.2	96.9	97.7	98.9
部活動に積極的に参加しましたか。	91.6	94.3	87.6	93.1
体力は高まってきたと思いますか。	85.9	82.2	85.5	89.7
運動やスポーツに関心を持ちましたか。	82.7	77.2	81.0	89.5
家庭学習を 1 時間以上やっていますか。	62.7	53.4	53.5	80.5
スマートフォン等を控えめにしている。	47.2	40.1	42.1	57.1
人のためになることをしましたか。	86.4	80.9	82.1	96.0
自分には良いところがあると思いますか。	73.8	65.6	69.7	85.6

- 挨拶や学校行事、部活動の取組が充実している。
- 学習面では、学校では努力しているが、家庭学習が十分定着していない。
- 体力向上の実感や運動・スポーツへの関心をもつ生徒が 80%を超えている。
- 自己肯定感、学年が上がるにつれて向上し、平均は 70%を超えた。
- スマートフォン等を自ら控えている生徒は 50%以下で大きな課題である。

【教職員による自己診断】

調査結果 (肯定的及び優秀と回答した割合: 数値は%) 12月22日実施

項目	肯定的	優秀
「磨く」生徒の育成について	100	35.0
「挑む」生徒の育成について	100	25.0
「思いやる」生徒の育成について	95.0	20.0
使命感と責任感をもった教師について	90.0	30.0
組織で職務にあたる教師について	80.0	25.0
生徒に寄り添い優しく厳しく指導する教師について	90.0	20.0
意欲を高める学習指導について	94.7	21.1
学校行事における主体的運営の指導について	94.7	26.3
積極的に参加する部活動指導について	95.0	30.0
小中一貫教育の視点に立った指導について	70.0	20.0
体力向上と活力ある生活の推進について	95.0	30.0

- ※ 本年度から生徒と同様の 4 問法で調査を実施した。
- 全体として適切に教育を展開できたと感じている。特に、本校の行動指針への意識と取組は極めて高い評価である。
- 学習意欲、主体的な行事運営、部活動、体力向上と活力ある生活に関する指導は充実していたと感じている。
- 組織的な運営と小中一貫教育の視点に立った指導が課題である。

関係者評価 (開かれた学校づくり協議会) 教育活動等の評価、保護者・地域の期待など

改善・充実に向けて

- 学力向上については、意欲を高める授業づくりを一層進めることにより、生徒の主体的な態度を育成し、保護者との連携を強化し、家庭においても学習する習慣を確立する必要がある。
- 健全育成については、九中の誇りである挨拶や学校行事の取組を推進するとともに、スマートフォン等の適切な使用については、指導の充実と保護者との連携により対応していく必要がある。
- 小中一貫教育では、9年間のスパンで考え、小学校との連携を強化していく必要がある。
- スーパーアクティブスクールとして、活力ある生徒の育成について成果を発表する必要がある。
- 周年事業の成果を生かし、地域を愛し次代の形成者となるための教育を一層推進する必要がある。

平成30年度の教育計画

- 1 学力向上: 授業改善・充実、補充教室等の充実、コンテストや確認テストを活用した学力の定着、家庭学習の充実
- 2 健全育成: 挨拶と生活習慣の確立、学校行事等での主体的な態度の育成、部活動の充実、スマートフォン等を控える取組
- 3 体力向上: 活力ある生徒の育成、スーパーアクティブスクールの研究推進、オリンピック・パラリンピック教育の推進
- 4 連携強化: 小中一貫教育の推進、児童・生徒の交流活動の推進、地域を愛する生徒の育成、地域貢献活動の推進